

焦点 | Vol.44 No.5 (2011 年 7-8 月)

看護学研究発展の軌跡

研究方法論に着眼して

特集扉 舟島なをみ

- **精神障害をもつ人の体験世界の理解に基づく看護研究方法の模索**
岩崎弥生
- **対象理解に着目した看護学研究方法論の探究** 正木治恵
- **成人看護学領域における看護実践モデルの特徴とそれを反映した研究方法論の探求** 眞嶋朋子
- **健康づくり・地域づくりに関する看護学研究と研究方法論の探究**
宮崎美砂子
- **母性看護領域に根ざした研究方法論の探究** 森 恵美
- **看護実践を包括的にとらえる研究方法論の特徴** 山本利江

特別記事

- 『APA 論文作成マニュアル第2版』で何が変わったか 前田樹海

連載

- 看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント4・研究デザイン
坂下玲子

編集後記

- 「看護研究—原理と方法」はいわゆる「黒本」と呼ばれ、研究者必携の書として知られています（弊社より絶賛好評発売中！）。その著者の1人、Beck氏の焦点とあって、タイトルも「看護研究」の「原理と方法」と一字違いにしてみようかと、半ば冗談半ば本気で考えたりしました。一見してわかる多様な切り口の各論文は、どれもそれだけで1つの焦点を組めそうな重要な意義とテーマ性をもっています。そして焦点を通読すると、多様に见えていたものが1本1本の枝となって、「研究とは何か」「方法とは何か」という、最も初めの問題意識に貫かれた大きな樹を完成することに気がつきます。遠くから見て改めて全体を俯瞰できたような新鮮さがあり、それは私の中で“synthesize”でした。こうした研究の広がりとお興行きに、Beck氏の研究の真髄と信条がうかがわれる気がします。そのBeck氏が、今度の日本看護研究学会で講演されるのはとても楽しみです。本焦点で投げかけられるさまざまな問題提起は、きっと学会でも深く掘り下げられるはずですね。黒田氏が焦点扉で呼びかけられているように、ぜひ学会に！ そのときはぜひ本号を片手に！
- （小長谷）

●編集顧問(五十音順)

小島 操子

聖隷クリストファー大学・教授(学長)

中島紀恵子

日本看護協会看護教育研究センター・
センター長

中西 睦子

国際医療福祉大学・教授(看護学科長)

前原 澄子

京都橘大学看護学部・教授(学部長)

南 裕子

高知県立大学・学長

●編集協力者

阿曾 洋子／荒川 靖子

井部 俊子／蝦名美智子

太田喜久子／岡谷 恵子

片田範子／金井 Pak 雅子

上泉 和子／川口 孝泰

河口てる子／川村佐和子

黒田 裕子／高橋 泰子

近田 敬子／筒井真優美

水流 聡子／野嶋佐由美

早川 和生／舟島なをみ

村嶋 幸代／森 恵美

安酸 史子／山本あい子

横尾 京子